

あおぞらパーク で遊ぼう

千葉秀雄先生の
実践を参考に

令和6年
7月9日～18日

○単位における願い

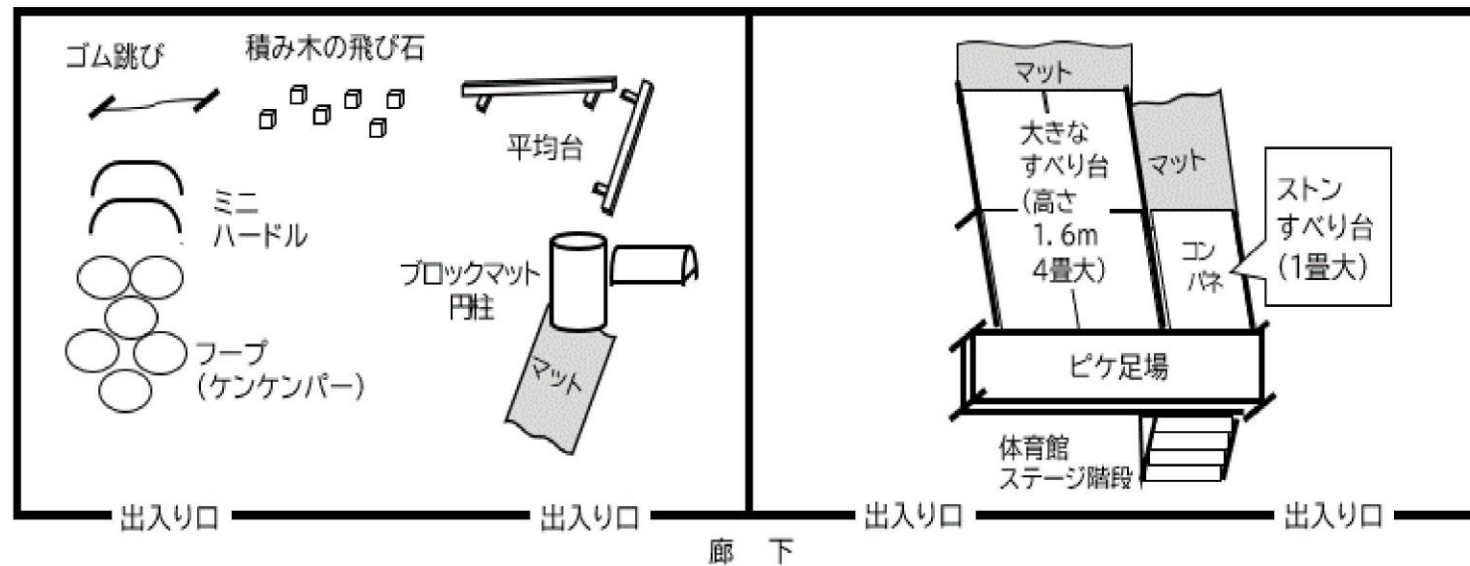
- ・『あおぞらパーク』で遊び方を工夫したり、遊びのルールを学んだりしながら、存分に遊びを楽しんでほしい。
- ・みんなで遊び場を作り上げる経験や交流学級の友達を招待する活動などを通して、達成感や自己有用感を高めてほしい。

本単元は、改築工事のため空教室になった2つの教室を利用し、工事用足場とコンパネなどで作った大きなすべり台とマットやミニハードルなどで作ったサーキットで構成した『あおぞらパーク』で存分に遊び、交流学級の友達も遊びに招待しようというもの。



実践の概要①

月/日	曜	小単元	主な活動内容
7/ 9	火	あおぞらパークを作ろう	体育館からマット等運び、サーキットを作る。
7/10	水		
7/11	月		すべり台の組み立てを行う。
7/12	水	あおぞらパークで遊ぶ	すべり台やサーキットで遊ぶ
7/16	木		
7/17	金	交流の友達を招待しよう	交流学級の友達を招待。遊び方を説明し一緒に遊ぶ。
7/18	火		



①あおぞらパークを作ろう



用務員さんにも手伝ってもらいました。安全に、まっすぐ打てるように真剣です!!



滑り台の土台となる足場です!



電動のやすい「電動サンダー」で滑る人が怪我しないように「ささくれ」を削っています♪



ビケ足場で作った櫓が置かれた遊び場で、業務員さんに手伝ってもらいながら、コンパネに2×4の角材をネジ止めや板磨きを体験。

すべる面の支えとなる跳び箱や櫓に昇りやすくする体育館ステージの階段など、大きくて重いものも全員で手分けして運ぶ。隣の教室には、マットやミニハードル、ブロックマットなどを運び込みサーキットを作る。

この他、看板やチラシ作成なども行い、遊び場への期待を高め、一つの目標に向かって協力し意欲的に活動。

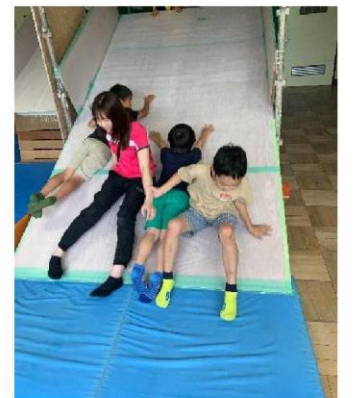
⇒【自分たちで遊び場を作った気分】

実践の概要②

②あおぞらパークで遊ぼう



完成した滑り台を見て「早く滑りたい！」と目を輝かせた。最低限のルールを確認し、最初だけ6年生から順に滑り、その後は教師からの指示はなく自由に滑って遊ぶ。順番を守り、上学年の子が下学年の子の手を引き手伝う姿、友だちと横並びで滑ったりうつ伏せで滑ったりと様々な滑り方で楽しむ。サーキット遊びに夢中になり、何度も巡りながら汗をびしょりかく様子も。自分の好きな遊び方を見つけ、存分に遊んだ。遊びの中で友達と衝突することがあっても、話し合い、我慢や譲り合うことで解決する力が育まれた。



実践の概要③

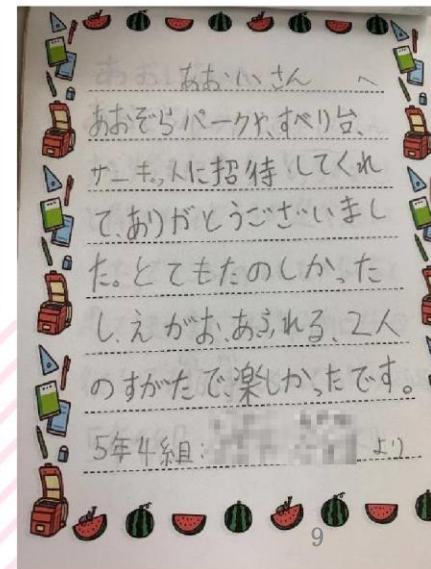
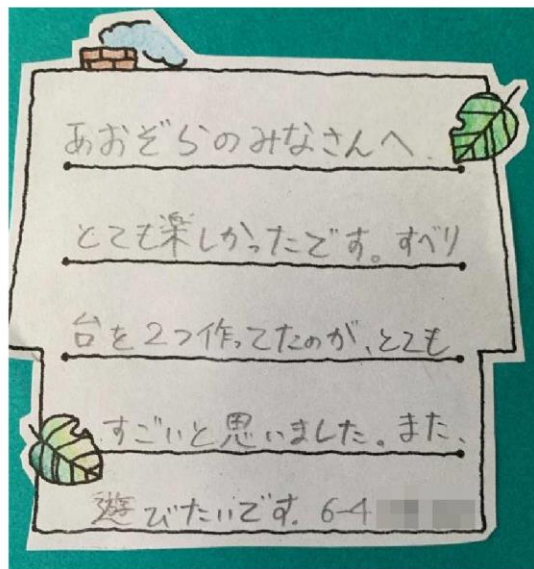
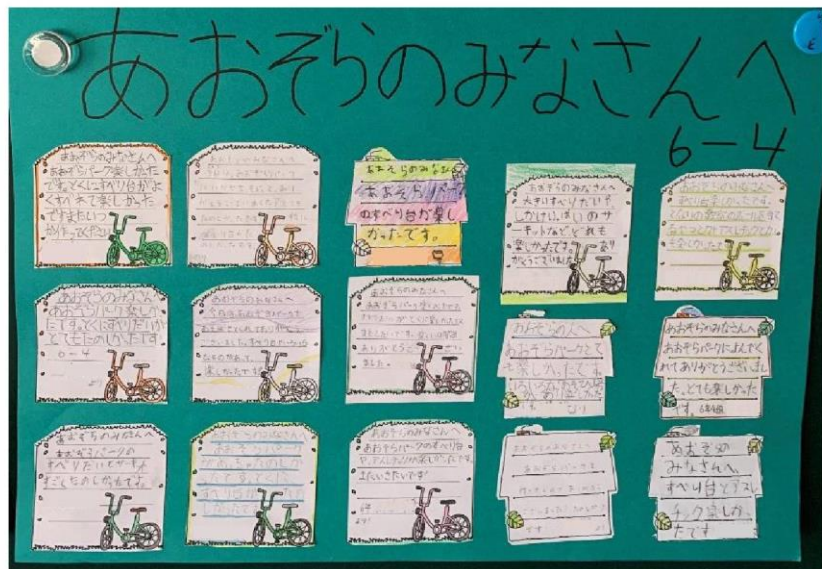
③交流の友達を招待しよう



『あおぞらパーク』で遊ぶ様子を見て、他の学級の子どもたちから「僕たち、私たちも遊びたい！」と声上がり、交流学級の友達を招待することに。

招待状の渡し方やルール説明の練習を重ね、自分の交流学級の友達が来てくれた子は、友達の前に立ち、ルールやより楽しく遊ぶ方法など自信をもって説明。すべり台やサーキットの実演も好評で、笑顔があふれた。

交流学級の友達と一緒に遊ぶことで親睦が深まった。手紙やプレゼントももらい、「あおぞら学級ってすごいね」と称賛され、子どもたちの自信につながった。

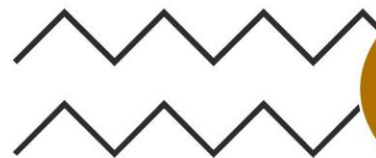


子どもたちの姿

『Canva』を覚え、友達と遊べた大谷さん（4年）

それまで集団活動が難しく、担任も悩むほどだった大谷さん。この単元で『Canva』を使ってチラシ作りに励み、学級の友達に賞賛され、自信を持てた。遊びでは、友達と手を取って滑り、会話するなど関わる様子も見られた。友達の名前を初めて呼び、仲間意識が芽生えた。家でも滑り台の話をした。

保護者曰く「学校の楽しかった話を聞くのは初めて」



山形県の安部遼平先生の実践を参考に考に



順番を守って遊べるようになった奥川さん（2年）

日々の遊びで一番じゃないと怒る奥川さん。電動ドライバーでの組み立てでも一番に呼ばれずに大泣きし、落ち着くまでに45分間。遊びが始まり、当初は横入りで喧嘩も。そこで、みんなが楽しく遊べるための方法を子どもたち同士で話し合い。「せっかく作ったすべり台、仲良く遊ぼう、喧嘩してる時間がもったいない、譲り合う、順番は守るなど」たくさんの意見。譲り合いや順番を守る大切さを学び、以後は落ち着いて遊べるように。普段の遊びでのトラブルも格段に減り、放課後デイでも「一番じゃなくても怒らなくなってきた」との家庭からの連絡。年度末、次年度頑張ることを聞かれ、「順番は守ること！すべり台で勉強した！」と話し、担任は感涙。



教室に入ることができるようになった菊田さん（1年）

体育館に入れず入学式に出席できなかった菊田さん。入学式後も、教室に入ることができず廊下や隣の校長室に来ることが度々。しかし、すべり台の組み立てやサーキットの準備には友達と一緒に参加。出来上がったすべり台、サーキットで笑顔で遊ぶ姿が毎日。その後、教室で友達と一緒に過ごせるように。



『あおぞらパークで遊ぼう』のまとめ

○保護者・交流学級担任から

- ・電動工具も使うことが初めてだったので、良い経験になりました。
- ・毎日、「滑り台楽しかった」と言って帰ってきます。朝には、「今日も滑り台楽しみ。」と言って朝の準備を早くしていました。
- ・子供たちが、「楽しかった。もっと遊びたい。」と口々に話していました。
- ・6年生が無邪気に遊ぶ姿を見ることができました。気分転換に良い時間になりました。
- ・遊び方を説明したあおぞらの児童に、「がんばったね。すごいね。」と、声が出ていました。

【成果と課題】

- 子どもたちに強烈なインパクトを与えた遊びの経験⇒子どもたちの生活に大きな変化
- 遊びの中でのトラブル⇒楽しく遊ぶためのルールや順番の学習を遊びの中で
- 大きなすべり台やサーキット⇒友達との関わり方を促し、広がりへ
- 交流学級の友達を招待し一緒に遊ぶ⇒友達からの称賛⇒かかわりの広がり・自信に
- ▲場所やビケ足場の確保 ▲木材やプラダン(購入するための費用や保管場所)
- ▲遊びにどのような「テーマ性(ストーリー)」を持たせるか

